

第 136 回 信州整形外科懇談会

日本整形外科学会認定教育研修講演

(日整会 専門医 1 単位)

講師：大阪大学整形外科 教授
岡田 誠司先生

演題：AI を用いた整形外科・脊椎外科研究

日 時：2026 年 2 月 14 日（土）11：50～

会 場：信州大学旭総合研究棟 9 階

（お車でお越しの際は、信州大学附属病院駐車場（300 円）をご利用ください）

参 加 費：3,000 円（初期研修医・コメディカル；1,000 円）

（参加には事前の申し込み、参加費振り込みが必要になります。当日は本プログラム送信の際に添付してあるご芳名カードを記載の上、会場入り口にてご提出をお願いいたします。ご芳名カードの提出をもって参加受付とさせていただきます。）

抄録掲載料：1,000 円（発表者）

単位申請料：1,000 円（日整会教育研修単位取得希望の場合、事前に単位申し込み、単位料振り込みが必要になります。申し込み時に日整会の会員番号が必要となります。

単位の認定は当日、会場にてバーコードリーダーで QR コード を読み込みます。日整会新基幹システム JOINTS が開始され、日整会会員カードが廃止となり、QR コード管理となっておりますのでご注意ください。）

発 表：1 例報告 1 題 4 分、その他 5 分、討論 2 分、パソコン単写

抄 録：信州医学雑誌に掲載されます。

当番幹事 信州大学医学部 運動機能学教室

高橋 淳

信州大学整形外科懇談会事務局

TEL 0263-37-2659(直通) FAX 0263-35-8844

共 催 信州整形外科懇談会／科研製薬株式会社

参加方法と発表形式について

信州整形外科懇談会 入力フォーム



<https://forms.gle/1qDMjYucyK3rv2jbA>

参加申し込み Google フォーム入力締め切り： **2026 年 2 月 4 日 (水)**

参加方法

Google フォーム <https://forms.gle/1qDMjYucyK3rv2jbA> より必要事項を入力後に、金額を確定して事務局よりメールにてお振込みを依頼いたします。指定された金額を下記口座へ**お名前のみ**を御明記の上お振込みください。

八十二銀行 信州大学前支店 普通口座 142543
口座名義：信州整形外科懇談会事務局

参加費振り込み締め切り： **2026 年 2 月 6 日 (金) 12:00 (正午)**

※手続きの都合上、申し込み、振り込みは早めに設定されています。ご協力をよろしくお願いいたします。

※会費振り込み後、当日不参加となった場合、参加費は返金いたしますが、振込手数料を引いた金額での返金となります。

発表者の方へ

① 発表用 PowerPoint ファイル

ファイル提出用 Google フォルダ内に提出してください。

発表用ファイルの提出締め切り： **2026 年 2 月 9 日 (月)**

※発表用ファイルを共催の科研製薬株式会社で確認するため、**締め切り厳守**でお願いいたします。

② 信州医学雑誌用の抄録(本文 400 文字)

ファイル提出用 Google フォルダ内の「信州医学雑誌用抄録ひな形(400 字)」(Word ファイル)に上書きして信州医学雑誌用の抄録を作成してください。

抄録には演題名、所属、演者名、400 字以内の本文をご記入お願いします。

信州医学雑誌用抄録提出締め切り： **2026 年 2 月 14 日 (土)**

製品紹介 (11:50～12:00)

腰椎椎間板ヘルニア治療剤 ヘルニコア椎間板注用 1.25 単位 科研製薬株式会社

オープニングセッション (12:00～12:15)

座長：高橋 淳

① 若き医師は何によって進路を決断するのか ― 信州大学整形外科における勧誘戦略の検討 信州大学 整形外科

○熊木大輝、白山輝樹、中村駿介、小山勇介、高沢 彰、高橋 淳

2024-2026 年度の3年間の信州大学整形外科入局関連因子を解析した。研修医2年目のゴッドハンドセミナー参加、整形外科志向、地元要因が独立因子であり、特に診療科未定層で介入効果が高く、勧誘戦略として有効であった。

② 信州大学整形外科同門会のワークライフバランスアンケート結果報告

長野県立こども病院 整形外科

○酒井典子

ワークライフバランスについて、信州大学整形外科同門会員を対象にアンケート調査を行った。その結果を報告する。

上肢 (12:15～12:55)

座長：北村 陽

1. *舟状骨摘出＋有頭月状骨間固定術の実施後8年経過した1例

岡谷市民病院 整形外科

○久米田慶裕、上甲巖雄、田中 学、春日和夫、林 正徳、内山茂晴

56歳男性。SNAC wrist に対して舟状骨摘出＋有頭月状骨間固定を行い、術後3.5年では良好な結果が得られていた。術後8年の長期においても機能や疼痛、画像上のパラメーターは術後3.5年と同様に保たれていた。この術式は4-corner fusion と比較して手技が容易であり、SNAC wrist 治療法の主要な選択肢の一つである。

2. 手外科手術における術後予防的抗菌薬の必要性についての検討

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○百瀬陽弘、磯部文洋、中村恒一、太田浩史、向山啓二郎、狩野修治、政田啓輔、
渡邊 柊、秋元郁恵、畑 幸彦

手外科手術に対し術後抗菌薬が感染率に影響しないという報告があるがコンセンサスは得られていない。本研究では当院の手外科手術における術後抗菌薬の必要性について後ろ向きに検討したので報告する。

3. 非観血的関節授動術を実施した肩関節拘縮患者の治療成績

小松整形外科

○高津和貴、下平悠真、小松雅俊

当院で肩関節拘縮症例に対し斜角筋ブロック下にサイレントマニピュレーションを行った 5 例の治療成績の結果に影響した因子を考察した結果、下垂位外旋が改善した例のみ成績が良かったので供覧する。

4. 腱板断裂手術例における肩甲下筋の脂肪浸潤の臨床的な特徴

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○政田啓輔、畑 幸彦、太田浩史、中村恒一、向山啓二郎、狩野修治、磯部文洋、
百瀬陽弘、秋元郁恵、渡邊 柊

腱板断裂手術例の MRI で肩甲下筋の脂肪浸潤を時々認めるが、臨床成績に及ぼす影響については明確ではない。今回、腱板修復術を受けた 200 例 200 肩を対象に、その臨床的な特徴について調査したので報告する。

5. ＊幼児の化膿性関節炎の 1 例

まつもと医療センター 整形外科

○新津文和、植村一貴、鈴木周一郎、福澤耕介

比較的まれな、1 歳 6 か月の幼児の化膿性肩関節炎を経験した。起因菌は肺炎球菌で、手術を行い、術後 3 年まで経過観察を行った。文献的考察を加えて報告する。

外傷 (12 : 55～13 : 40)

座長：柳澤 架帆

6. 肘関節脱臼後 MRI における矢状断像靱帯断裂評価の有用性

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○磯部文洋、中村恒一、太田浩史、向山啓二郎、狩野修治、百瀬陽弘、政田啓輔、
秋元郁恵、渡邊 柊、畑 幸彦

単純肘関節脱臼手術 9 例の MRI 矢状断像の有用性を検討する。MCL 評価は冠状断が優れるが、LCL 断裂感度は冠状断 50%に対し矢状断 75%と高かった。LCL 診断における矢状断併用は精度向上に有用である。

7. *徒手整復困難な肘関節後外側脱臼に対して観血的整復術を施行した 1 例

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科¹⁾

北信総合病院 整形外科²⁾

○渡邊 柊¹⁾、磯部文洋¹⁾、永井亮輔²⁾、中村恒一¹⁾、太田浩史¹⁾、向山啓二郎¹⁾、
狩野修治¹⁾、百瀬陽弘¹⁾、政田啓輔¹⁾、秋元郁恵¹⁾、畑 幸彦¹⁾

成人の肘関節後外側脱臼骨折で小頭骨折部への鉤状突起陥入により徒手整復不能な 1 例を経験した。直視下に後外側から一旦外側方脱臼の状態へ転換し、次いで内側へ押し込む二段階の整復操作で整復し得たので報告する。

8. *骨欠損を伴う舟状骨骨折に対し腸骨移植併用ロッキングプレート固定で良好な骨癒合を得た 1 例

信州大学 整形外科

○久保卓也、北村 陽、宮岡俊輔、岩川紘子、阿部雪穂、中村駿介、高橋 淳

32 歳男性の受傷後 1 か月経過した骨欠損を伴う舟状骨骨折に対し、腸骨自家骨移植を併用した掌側ロッキングプレート固定を施行し、術後約 6 か月で骨癒合が得られた。文献的考察を加えて報告する。

9. *CM 関節脱臼を伴った大菱形骨脱臼骨折の 1 例

飯田市立病院 整形外科¹⁾

飯田市立病院 リハビリテーション部²⁾

○小田多井俊介¹⁾、伊坪敏郎¹⁾、古田裕之²⁾、小野 寛¹⁾、林 幸治¹⁾、畑中大介¹⁾、
伊東秀博¹⁾

非常に稀である CM 関節脱臼を伴う大菱形骨脱臼骨折を経験したので報告する。手術治療にて小骨片を摘出。脱臼整復しキルシュナー鋼線による関節固定および関節包縫縮を施行した。術後 1 年以上経過し、疼痛なく機能良好である。

10. 恥骨結合離開を伴う骨盤輪骨折における術後恥骨結合再離開の検討

諏訪赤十字病院 整形外科¹⁾

信州大学 整形外科²⁾

○近藤裕崇¹⁾、岩浅智哉¹⁾、宮岡俊輔²⁾、小泉啓介¹⁾、山口浩平¹⁾、中川浩之¹⁾

恥骨結合離開を伴う骨盤輪骨折に対し ORIF を施行した 11 例を対象に、術後恥骨結合再離開の関連因子を後ろ向きに検討した。再離開群では術前恥骨結合離開距離が有意に大きく、前方プレート長は短い傾向を示した。

下肢① (13 : 40～14 : 35)

座長：熊木 大輝

11. 脛骨近位形態が反復性膝蓋骨脱臼に及ぼす影響

丸の内病院 整形外科¹⁾

信州大学 整形外科²⁾

○小岩 海¹⁾、天正恵治¹⁾、前田 隆¹⁾、縄田昌司¹⁾、下平浩輝²⁾、高橋 淳²⁾

反復性膝蓋骨脱臼(Recurrent Patella Dislocation :RPD)の病態は多因子性であり、治療法決定には危険因子の詳細な評価が必要である。今回我々は脛骨近位の各種形態に焦点を当て、RPD に与える影響を検討した。

12. ＊逸脱を伴う膝関節内側半月後根断裂損傷に対して suture anchor による縫合と centralization を行った 1 例

信州大学 整形外科

○伊藤慎太郎、小山 傑、下平浩輝、堀内博志、熊木大輝、小山勇介、前角悠介
高橋 淳

膝関節内側半月後根損傷(MMPRT)は早期に軟骨損傷を来す可能性があるため、外科的治療が推奨される。今回我々は、逸脱を伴う MMPRT に対して suture anchor による縫合と centralization を行い、良好な成績を得た症例を経験したので報告する。

13. 早期変形性膝関節症に対する開大型高位脛骨骨切り術は関節症の進行をより抑制するのか？

丸の内病院 整形外科¹⁾

信州大学 整形外科²⁾

○天正恵治¹⁾、小岩 海¹⁾、前田 隆¹⁾、縄田昌司¹⁾、下平浩輝²⁾、高橋 淳²⁾

変形性膝関節症に対する開大型高位脛骨骨切り術は長期経過で関節症が徐々に進行することが知られている。しかし、早期手術が関節症の進行を予防できるか否かはわかっておらず、今回検証を行った。

14. 大腿骨髄内釘固定術後に PSI (Patients Specific Instruments) を使用し人工膝関節全置換術を施行しえた 3 症例

長野松代総合病院 整形外科¹⁾

信州大学医学部附属病院 リハビリテーション科²⁾

水谷病院³⁾

○土肥久悟¹⁾、豊田 剛¹⁾、中村順之¹⁾、秋月 章¹⁾、堀内博志²⁾、水谷康彦³⁾

大腿骨骨折や骨切り術に対して髄内釘固定術を行うと、TKA の際に髄内ロッドが使用できない。PSI を用いることで髄内釘を抜釘せずに正確な大腿骨インプラント設置を施行し得た 3 症例を経験した。

15. ＊特発性膝関節血症を合併した変形性膝関節症に対し、術前血管内治療を併用して人工膝関節置換術を施行した 1 例

信州大学 整形外科

○杠 華絵、熊木大輝、小山勇介、前角悠介、小山 傑、下平浩輝、堀内博志、高橋 淳

80 歳男性。頻回の膝関節内出血を合併した変形性膝関節症に対し、血管内治療を行った後人工膝関節置換術を施行した。このような症例に対する術前血管内治療の有効性と他の治療方法について文献的考察を述べる。

16. ＊先天性脚長不等に対する脚延長中に生じた外反変形に対しプレート固定 conversion を行った 1 例

長野県立こども病院 整形外科

○三宅海斗、酒井典子、松原光宏

先天性脚長不等に対する脚延長術では延長中にアライメント異常を生じ得る。今回、下腿延長中に外反変形を呈し、矯正目的にプレート固定へ conversion した 1 例を経験した。文献的考察を加えて報告する。

————— <休憩 20 分> —————

下肢② (14 : 55～15 : 55)

座長：前角 悠介

17. 人工股関節全置換術におけるサージセルパウダー®閉創前散布の術後出血量減少効果の検討

諏訪赤十字病院 整形外科¹⁾

信州大学 整形外科²⁾

○山口浩平¹⁾、岩浅智哉¹⁾、下平浩輝²⁾、近藤裕崇¹⁾、古泉啓介¹⁾、中川浩之¹⁾

当院で施行した THA において、止血目的に閉創前にサージセルパウダーを散布した 32 患者と非散布 50 患者の Hb 変化量や推定術後出血量、術後輸血量を比較した。術後輸血量は散布群で少なかったが、他は差を認めなかった。

18. アライメントガイドソケットフォルダーのみ使用した人工股関節置換術におけるセメントソケットの設置精度

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科

○野村博紀、臼田 悠、小田切優也、石垣範雄、外立裕之

ソケットフォルダーのみ使用による初回 THA 134 関節のセメントソケットの設置精度を CT にて検討した。設置位置は涙痕から内外、上下方向への骨頭中心までの距離、アライメントは外方開角と前捻を評価した。骨頭中心が至適区域内に設置されていたのは 87%、アライメントが Lewinnek の安全域内に位置していたのは 85%であった。

19. 当院における SMS®使用 THA 術後短期成績

長野松代病院 整形外科¹⁾

水谷病院²⁾

信州大学医学部附属病院 リハビリテーション科³⁾

○小林誉典¹⁾、中村順之¹⁾、土肥久悟¹⁾、豊田 剛¹⁾、水谷康彦²⁾、秋月 章¹⁾、堀内博志³⁾

Curved short stem は、より生理的な荷重伝達による骨温存および軟部組織温存を目的としてデザインされている。Medacta 社製 SMS®を用いた THA の当院における術後短期成績を報告する。

20. *右股関節痛を初発症状とし診断に難渋した破傷風の 1 例

信州上田医療センター 整形外科

○大崎史明、中井亜美、奥田 翔、赤羽 努、吉村康夫

78 歳女性。誘因なく右股関節痛を生じ入院。血液検査、画像検査で異常は認めなかった。入院後に開口障害、筋攣縮、CK 上昇が出現し破傷風と診断した。局所の筋肉痛で発症した比較的稀な症例であった。

21. 透析患者の足関節固定術後に骨癒合不全を生じた 1 例

信州大学 整形外科

○松原慎也、下平浩揮、小山勇介、前角悠介、熊木大輝、小山 傑、堀内博志、高橋 淳

72 歳男性、透析中。足関節症に対しスクリューによる関節固定術を行うも骨癒合が得られず、プレートによる再固定を行った。骨質不良や整復不良、固定力不足が原因と考えられた。透析患者では固定法選択も重要である。

22. *外反母趾術後の重度内反母趾に対する変形矯正手術の 1 例

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○秋元郁恵、磯部文洋、太田浩史、中村恒一、向山啓二郎、狩野修治、百瀬陽弘、政田啓輔、渡邊 柊、畑 幸彦

外反母趾術後の RA 患者に生じた重度内反母趾に対し、Johnson 変法と第 1 中足骨短縮骨切り術を施行。HV 角は -42° から -7° 、JSSF スコアは 42 点から 95 点へ改善し、良好な短期成績が得られた。

23. 当院における成人期扁平足の治療-PCFD 分類に則って-

丸の内病院 整形外科

○樋口祥平、百瀬敏充、中土幸男、山崎 秀

成人期扁平足は後脛骨筋機能不全やばね靱帯損傷などが複合的に関連する病態で、その手術は様々な手法を組み合わせで行われる。近年提唱されている PCFD 分類に則り、当院における外科的治療について報告する。

腫瘍・その他 (15 : 55～16 : 25)

座長：出田 宏和

24. ＊パンツ型浸潤を呈した左単径部脱分化脂肪肉腫の1例

信州大学 整形外科

○吉田崇哲、田中厚誌、岡本正則、鬼頭宗久、高沢 彰、樽田大輝、青木 薫、
高橋 淳

悪性軟部腫瘍では血行性転移が主体であり、リンパ節転移は比較的まれである。今回、リンパ節転移を契機にパンツ型浸潤と呼ばれる皮膚の癌性リンパ管症を呈した単径部脱分化脂肪肉腫の1例を経験したため報告する。

25. ＊胸椎に発生したリン酸尿性間葉系腫瘍 (phosphaturic mesenchymal tumor : PMT) に対して腫瘍脊椎骨全摘術 (total en bloc spondylectomy : TES) を施行した1例

信州大学 整形外科¹⁾

飯田市立病院 整形外科²⁾

金沢大学 整形外科³⁾

信州大学医学部附属病院 臨床検査部⁴⁾

○岩本将弥¹⁾、岡本正則¹⁾、笹尾真司¹⁾、樽田大輝¹⁾、高沢 彰¹⁾、田中厚誌¹⁾、
鬼頭宗久¹⁾、青木 薫¹⁾、高橋 淳¹⁾、伊東秀博²⁾、加藤仁志³⁾、岩谷 舞⁴⁾

FGF23 産生腫瘍である PMT は、腫瘍性骨軟化症を発症する稀な疾患である。胸椎腫瘍に対し病理、内分泌検査より PMT と診断し、TES による腫瘍の完全切除で内分泌学的な改善を得た1例を報告し、その診断と治療について検討する。

26. 被虐待児症候群の症例を通して考える整形外科の役割

信州大学 整形外科¹⁾

長野県立こども病院 整形外科²⁾

○杠 華絵¹⁾、酒井典子²⁾、松原光宏²⁾

こども病院では2019年よりCPT(Child Protection Team)を編成し、被虐待児に対する検討を行っている。CPT から見えてくる整形外科医の役割について検討したので報告する。

脊椎 (16 : 25～17 : 10)

座長：三村 哲彦

27. ＊巨大 OALL により嚥下障害を生じた 1 例の報告

信州大学 整形外科

○香山竜平、上原将志、池上章太、大場悠己、黒河内大輔、福澤拓馬、三村哲彦、
笹尾真司、重信圭佑、泉水康洋、中西真也、高橋 淳

椎体前方に高度に突出した前縦靱帯骨化 (OALL) により嚥下障害を生じた症例に対し、C3-5 の高位で骨化切除術を行い良好な嚥下機能の回復を得た 1 例を経験したため報告する。

28. 腰椎椎間板ヘルニアの局在診断と術式決定における椎間板造影の有用性の報告

国保依田窪病院 脊椎センター

○野口 武昭、滝沢 崇、牧山 文亮、井上 慶太、由井睦樹、三澤 弘道

当院では腰椎椎間板ヘルニアに対して、その局在や形態的特徴をより正確に把握するために椎間板造影を用いて術式の選択決定をしている。今回、椎間板造影の有用性が高かった症例を報告する。

29. 当院における fenestrated pedicle screw の使用経験とセメントリークに関する検討

安曇野赤十字病院 整形外科

○川上 拓、鎌仲貴之、泉水邦洋、林 大右、善賤未結

Fenestrated pedicle screw (FPS) は骨粗鬆症性椎体骨折において、固定力を高め、ゆるみの発生率を減少させると報告されている一方で、セメントリークも多く報告されている。当院における FPS の使用経験とセメントリークに関して検討した。

30. 脊椎圧迫骨折に対する手術療法と保存療法における自宅退院率を逆確立重みづけ法による解析で比較した観察研究

長野赤十字病院 整形外科¹⁾

長野赤十字病院 リハビリテーション科²⁾

○小西正晃¹⁾、小清水宏行¹⁾、栗川桃華²⁾、宮津 優¹⁾、長谷川弘晃¹⁾、石原典子¹⁾、
瀧野孝明¹⁾、稲垣智也¹⁾、出口正男¹⁾

脊椎圧迫骨折は ADL 低下を招き、自宅生活困難となる可能性がある。本研究は 70 歳以上の圧迫骨折で入院した患者を対象に手術療法群と保存療法群で、両者の自宅退院率を、逆確率重み付け法で解析したので報告する。

31. 腰椎外側障害に対する全内視鏡下脊椎手術群の短期評価

国保依田窪病院 脊椎センター

○牧山文亮、滝沢 崇、野口武昭、井上慶太、由井睦樹、三澤弘道

当院では 2025 年 4 月から新たに局所麻酔下に行う全内視鏡下脊椎手術 (FESS) を導入した。今回、腰椎外側障害に対して FESS を施行した群の短期評価を行なったので報告する。今後、中長期的な経過もまとめていきたい。

<総会、休憩 20 分>

教育研修講演

(17 : 30～18 : 30)

講 師：岡田 誠司 先生

大阪大学整形外科 教授

演 題： AI を用いた整形外科・脊椎外科研究

座 長 高橋 淳 先生

信州大学医学部 運動機能学教室 教授

認定単位： 日本整形外科学会専門医資格継続 1 単位

([1] 整形外科基礎科学 [7] 脊椎・脊髄疾患 脊椎脊髄病医単位 (SS))

事前に単位申し込み、単位料振り込みが必要になります。当日の対応はいたしかねます。

※単位の認定は当日、会場にてバーコードリーダーで QR コードを読み込みます。

「日整会 JOINTS」スマホアプリをダウンロードし QR コードを表示するか、JOINTS マイページより QR コードをダウンロードし、印刷して持参してください。

終了後、旭総合研究棟 9 階で懇親会を行います。

会費は不要です。多数の先生方のご出席をお待ちしております。

交通のご案内

バス JR松本駅前、アルピコプラザ1階松本バスターミナル発 運賃200円

1番乗り場 [信大横田循環線]【信州大学前】下車(所要時間約15分)

2番乗り場 「横田信大循環線」【信州大学前】下車(所要時間約25分)

タクシー 松本駅から約10分 (1,400～1,500円)「信州大学正門」とお伝えください。

* 大学構内に駐車場はありませんので、ご注意ください。

車でお越しの場合は、病院駐車場(有料)あるいは周辺の駐車場のご利用となります。

会場（旭総合研究棟）のご案内

信州大学正門から、直進し、グラウンド(駐車場)が左側にある9階建の建物です。

正面を入るとエレベーターがあります。

案 内 図

